

式 辞

桜吹雪の美しい朝となりました。ここ矢の原台には、早くも若葉の季節が訪れようとしています。

このよき日に、令和4年度 島根県立松江南高等学校入学式を挙行し、269名の新入生を迎えることができました。晴れて南高の一員となった皆さん、保護者の皆様、誠におめでとうございます。私ども教職員一同、大きな喜びと安堵を抱いています。

昨年につき、規模を縮小した式となりましたが、PTA副会長 中澤洋介 様のご臨席を賜り、新入生の前途を祝していただきますことに、厚く感謝申し上げます。本日、出席できませんでしたが、在校生も皆さんを心待ちにしています。全校生徒781名で、いよいよ松江南高校の令和4年度が始まります。

わが松江南高校は、昭和36年、遙か宍道湖を望むこの矢の原台に開校しました。卒業生は2万2千名を超え、学問、政治、経済などあらゆる分野で活躍する優秀な人材を輩出してきました。開校60周年の節目を経て、今まさに、南高の新しい学びを創る挑戦の真っ最中です。

新入生の皆さん。あなた方は南高への進学という道を選び、高校入試を乗り越えて今ここにいます。その選択の決め手となったのは何だったのでしょうか。コロナ禍で説明会や見学の機会が減り、不安や迷いもあったことでしょう。それでも決断してくれた動機の中に、南高の挑戦に対する興味や期待、また、先輩たちの生き生きした姿への憧れがあったとしたら、これほど嬉しいことはありません。

南高の挑戦、その大きな柱が、文部科学省の指定3年目を迎えるスーパーサイエンスハイスクール事業、通称SSHです。本校では、これからの時代に欠かせない学問「データサイエンス」を基盤とし、理系・文系の壁をにとらわれない、探究的な学びを進めています。新教育課程の目玉でもある探究学習と、各教科の学習。この二つにICT活用を絡めて循環させ、高い学力と学ぶ楽しさを育てたい。全校生徒を対象に全教員がかかわる本校独自の取組に対して、地元から海外まで、大学や企業、自治体など様々な立場の方から熱い応援をいただいています。各界のプロとの出会いも、南高の強みと言えるでしょう。

そして今日、このSSHの中心を担う、県内唯一の探究科学科が2期生を迎えました。理数科の先輩から探究科学科の後輩たちへ、高度な研究が受け継がれて花開くことも、大いに期待しています。

探究科学科と普通科。南高の活力の両輪である皆さんには、ぜひ南高ならではの強みやチャンスは大いに利用して、あなた自身の高校生活をつくってほしいと思います。勉強はもちろん、部活動で活躍したい、全国を目指したいという夢も大いにけっこう。あなた方の伸びしろ、可能性を信じ、高みを目指して進んでくだ

さい。

今はまだ新しい環境や関係づくりに不安もあるでしょう。しかし、縁あって県内外から集い、高校3年間を共にする仲間です。共に学び、泣き、笑い、どんな山も、壁も、力を合わせて乗り越えて、新しい景色を見てください。

私は普通科18期生として本校で学び、教員として2度勤務するご縁に恵まれました。昨年、開校60周年に立ち会い、改めて、年月を経ても全く色あせないものの存在に深い感動を覚えました。

その代表が、初代校長 木島俊太郎 先生の作詞による校歌であり、二代校長 飯塚一雄 先生が定められた校訓です。この2年余り、南高の校歌を大合唱できないのが寂しいという声を、生徒・教職員、卒業生など、どれほど多くの人から聞いたことでしょうか。自慢の校歌を、皆さんと声高らかに歌える日をひたすら願っています。そしてこの校訓「質実剛健 創造進取 和敬共栄」——まさに今、激動の世界を生きていく若者に不可欠な姿勢を示していることは、言うまでもありません。

62期生として新たな歴史を刻んでいく皆さん、受け継がれてきた南高の精神に誇りをもち、校歌3番にあるように、夢清き「三とせの青春」を謳歌してください。

改めて、保護者の皆様。お子様のご入学おめでとうございます。今日の晴れ姿への感慨と同時に、世の情勢への不安もおもちだと思います。

ただ、どんな状況であれ大切なのは、子どもたちの貴重な毎日のために、ご家庭と我々学校が心をつなげて歩いていくこと。子どもも大人も思いやりをもって、心と体の健康を守る努力を続けることだと思っています。どうか信頼関係のもと、お子様の高校生活を共に支えていただきますよう、この場を借りてお願い申し上げます。

最後に、新入生の皆さんが、松江南高校で自己の可能性を広げ、生涯続く友情の絆を結ばれますよう心から祈念し、式辞といたします。

令和4年4月9日

島根県立松江南高等学校長
倉崎千草